



保育教諭等
必携!

幼児期における 豊かな自然体験活動の すすめ



～一番大切なことは、
豊かな自然の中で学んだ!～



独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立妙高青少年自然の家



プロローグ

Prologue

幼児期に
大切なことは…

幼児期の教育は人格形成の基礎を培う重要な時期です。

その中で幼児は、**環境を通して**様々なことを体験し、学んでいきます。

そこで大切なのが、幼児の**主体的な活動**が確保されるように

一人一人の特性や発達を理解し、

意図的・計画的に**環境**を構成する必要があります。

(引用：幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成26年4月)



幼児は“**環境**”を通して様々なことを**体験し、学んで**います。

保育教諭や私たち大人が、幼児にとってどのような“環境”を構築するかはきわめて重要です。この“環境”づくりの“ヒント”を、本紙で述べます。

国立妙高青少年自然の家（以下自然の家）が、いままで取り組んできた「幼児キャンプ」や「妙高市教育委員会との連携及び協働」、「妙高市内調査研究園での成果」等から、幼児期にふさわしい“環境”づくりを自然体験活動の視点からアプローチします。

自然体験活動と聞いて保育教諭の皆さまが、難しい、専門的、危険が多い、など不安要素があるかもしれません。しかし自然の家での取り組みは、身近な自然で、安全に、幼児主体の遊びを幼児と一緒にやることをコンセプトとしています。

これらの遊びは、幼児が主体であることから、夢中に遊び込みます。豊かな自然環境の中で、一人一人の興味に即した遊びが展開されます。また、遊びを通して共に喜び、感動してくれる仲間がいます。そして十分に遊び込める時間が保証されています。

このような環境の中で、幼児の“豊かな感性”や“思考力及び表現力”、出来たという“自己有能感”などが育まれます。

これらの力は、「社会を生き抜く力」の土台となります。主体的・能動的な力が必要であり、多様な環境での学びが重要であると考えます。



(引用：第2期教育振興基本計画 平成25年6月)

目次 Contents

01-02 プロローグ

■ 幼児期に大切なことは…

03-06 自然体験活動の有効性

- 自然の中で遊び、体力をアップさせよう！（その1）
- 自然の中で遊び、表現力をアップさせよう！（その2）

07-10 自然体験活動の必要性

- 自然体験活動が脳に与える影響（その1）
- 自然体験活動が発達に与える影響（その2）

11-12 互いにメリットが生まれる連携及び協働スタイル

- 幼児キャンプを通して
- 妙高市内調査研究園

13-14 幼保連携型認定こども園教育・保育要領と自然体験活動の関連

- 自然体験活動から5領域へのアプローチ

おわりに

自然体験活動の有効性

その1

自然の中で遊び、
体力をアップさせよう！

遊ぶ中で、体力向上を図りましょう！



体力向上のポイント

幼児期の体力向上には、自ら様々な活動に親しみ、楽しんで取り組むことが必要です。

子供にとって、遊び自体が楽しく感じなければなりません。

楽しければ自発的に動きます。関心を持ちます。夢中に遊び込みます。

自然の中で、楽しみながら遊ぶことで自然に歩数も増加します。

歩くことは、体力向上の基礎となります。心肺機能を高め、各器官を強化することができます。

自然の家では、自然体験活動時に子供（5歳児）の歩数を万歩計にて測定しました。

活動：冬の深雪たんけん
時間：10:30～12:00
(90分)

平均歩数

約 **4,000** 歩

(n=82)

自然体験活動時の90分間で、通常の園生活の1/3程度の歩数が測定されました。

日常の園生活と比べて自然体験活動時における歩数が増加することが分かりました。自然の中では興味のあるところに移動したり、それを見せ合うため仲間や保育者の所に移動したりと必然的に歩数が増えると考えます。

※通常1日の園生活での平均歩数は約12,000歩です。

1. 体力低下の影響

子供の体力低下が懸念されています。



子供にとって、体力は活動の源です。遊ぶ、学ぶ、食べるなど生活そのものを支えます。そして体力は、健康の維持や意欲、気力といった精神面の充実に大きく影響しています。



子供たちの体力低下の影響は、具体的にどのような場面に表出しているのでしょうか。

実際に自然の家を利用する園児を観察して、以下のことに気がきました。

- ① 転ぶことが多い・・・特に森の中などの不整地で転ぶ。
- ② 怪我をする・・・転んだ際に、顔面をぶつける怪我。後ろ向きで転んだ際に後頭部を打つ。
- ③ 意欲の低下・・・「つかれた」、「やだ」、「もうやめる」などの発言。
- ④ 集中力の低下・・・遊びが持続しない。話を聞くことができない。

このように体力低下は、子供たちの生活や活動そのものに大きな影響を与えています。

2. 自然体験活動時における体力向上のプロセス

STEP 1 多様な自然環境の中で、いろいろな遊びが展開され十分に身体を動かす環境が必要です。

- 体を動かすことの心地よさを味わう
- 自ら活動する喜びや達成感を味わう



さらに活発に遊ぶようになります。

STEP 2 活発に遊ぶようになれば、様々な遊び方（遊び方のスキル）が身につきます。

- 自ら考え創意工夫をしながら遊ぶ
- 体の諸機能をフルに活用して遊ぶ



直接体験や身体感覚を伴う遊びが深まります。

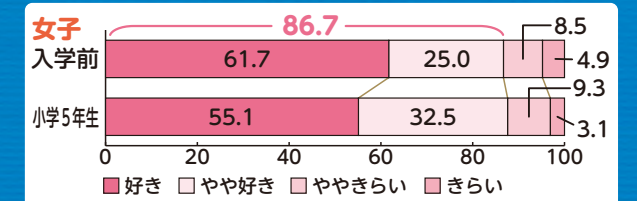
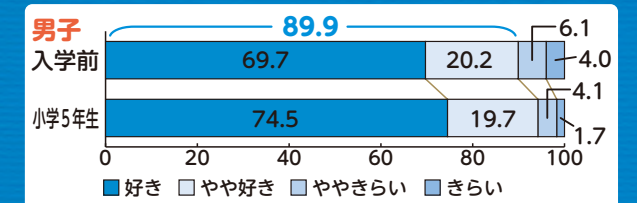
STEP 3 遊び方（遊び方のスキル）が身につくと、自信を持って遊び込みます。

- より意欲的・積極的に遊ぶ
- さらに興味や関心を深めていき、探求していく
- 興味や関心が同じ仲間との関わりを深めていく



自ら様々な活動に親しみ、楽しんで取り組みます。

幼児期に運動が好きなお子は、小学生になっても運動が好き傾向



出典 平成26年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査（報告書）
文部科学省（平成26年11月）を一部加工

幼児期の体を動かす遊びや運動の好き・きらいがその後の運動習慣や体力・運動能力に大きな影響を与えていることが分かります。幼児期こそ体力の基礎を十分に育む時期といえるでしょう。

自然体験活動の有効性

その2

自然の中で遊び、 表現力をアップさせよう！

感動体験を通して、豊かな表現力を身につけましょう！



1. 表現することの重要性

人は誰でも“嬉しかったこと”や“感動したこと”は表現したくなります。そして、表現したことが認められると、さらに嬉しくなります。この嬉しさが力となり、自信にもつながります。また、自分が認められているという自己肯定感も育んでいきます。

しかし、近年の調査（PISA 調査等）で、日本の子供たちの判断力や表現力が身に付いていないことなどが明らかになっています。

小学校学習指導要領では、言語環境を整え、言語活動の充実を図ることが示されています。小学校

現場でも“感じ取ったことを表現する”ことを大切にしています。

こども園教育・保育要領「表現」の領域では、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」としています。

人は表現することを通して、自己の存在に気づき、他者や社会から認められていきます。幼児期から表現することの楽しさや、心地よさを実感することはとても重要です。



2. 自然体験活動時における 表現力向上のプロセス

STEP 1 豊かな自然環境は、“発見”“不思議”“感動”の連続です。まさに“センスオブワンダー”の世界です。子供が興味や関心を広げられる多様な環境が必要です。

- 自ら興味をもち発見を楽しむ
- 自ら触れる・嗅ぐ・感じるなどの直接体験



発見や感じたことを友だちや保育者に話したくなります。

STEP 2 子供が体験したことや感動したことを、表現しやすい環境を作ることが大切です。

- 見たこと発見したことをすぐに話したくなる
- 保育者や友だちとの応答に安心する



子供の表現を受けいれ共感することが大切です。子供は聞いてもらえたという安心感を持ち、もっと話したくなります。また、保育者だけでなく友だちと情報を共有し関係性を築くことにも繋がります。

3. 子供たちの表現力

自然の家で開催された幼児キャンプの参加者の絵から表現力の向上について見てみます。キャンプ最終日には、自然の雄大さや、自分で挑戦したり感動したことが絵画の随所に描かれています。体験を通して豊かな表現力が育まれています。

STEP 3 様々な視点から表現させていくことが大切です。言葉で話すことが得意な子供、絵を描いて表現することが得意な子供、身体で表すことが得意な子供など表現方法は様々です。

- 自分なりの表現方法がある
- 表現したことを認められると嬉しい

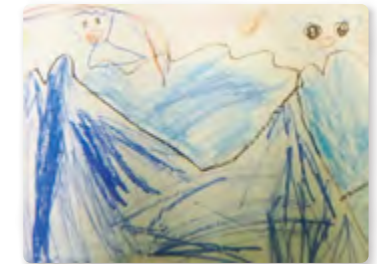


子供の表現方法にも個人差があることを理解し、その子にあった表現方法を認めてあげることが大切です。子供の気持ちを汲み取り丁寧に対応することで、表現することの心地よさを体感します。

4 歳児女児 (K.S)



園での運動会
よさこいを踊っている。



キャンプでの登山
画用紙いっぱい山の大きさを描いている。山の雄大さに気づき、雲も自分自身を応援してくれた感覚を持っているのか、雲に表情がある。さらに自分の大好きなハートがたくさん出ていて、頑張った自分にご褒美があるように描かれている。頂上に立ったことがとても嬉しかった表れである。



5 歳児女児 (S.A)



園での運動会 玉入れ
玉を入れている肘から先が描かれていない。



キャンプでの木登り
肘から先が描かれている。木を登るために手先まで必要だったことが表れている。



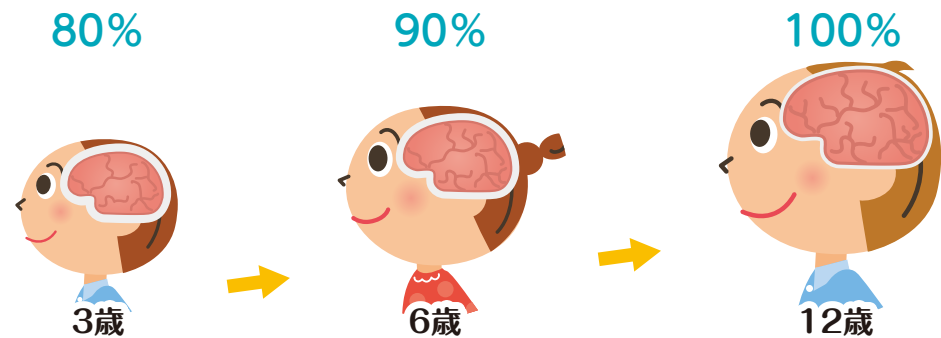
自然体験活動の必要性

その1

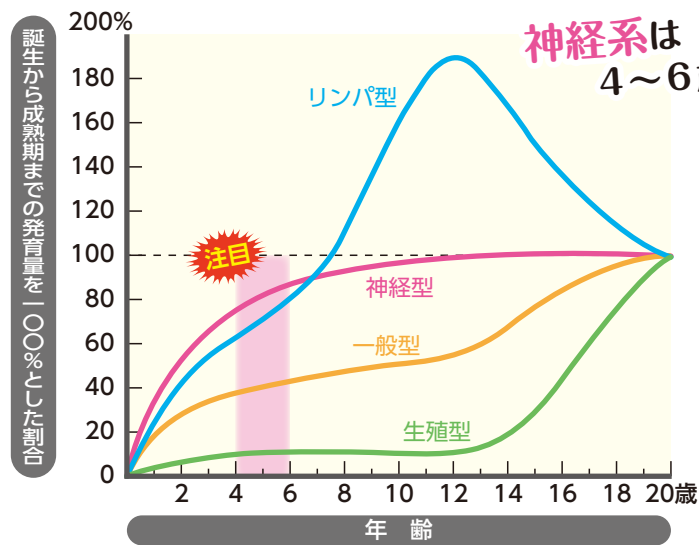
自然体験活動が脳に与える影響

1. 多種多様な動きは、脳や神経系に良い影響を与える

人間の脳は3歳までに80%、6歳までに90%、12歳までに100%完成します。



脳の発達と同時に神経系もこの時期にほぼ完成します。スカモンの発達曲線を見てみましょう。



(スカモンの発達曲線より引用し加工)

皆さんが、幼稚園のころ自転車に乗れましたよね。大人になっても自然に乗れますよね。幼児期から児童期は、脳や神経系の発達が著しい時期です。この時期に神経回路へ刺激を与え、その回路を張り巡らせるために**多種多様な動きを経験させることは、とても大切なことです。**



豊かな自然環境の中では、多種多様な活動が展開されます。子供の興味や関心に即した遊びが展開されます。自然の家の森でも、木に登ったり、枝を拾って秘密基地や家を作ったり、小枝を持ちいろいろな箇所をたたいて音を楽しんだり、昆虫を探すために木の根元を掘ったりと多様な遊びが展開されます。



このような多様な遊びを通して脳や神経系が十分に発達することを認識しましょう。



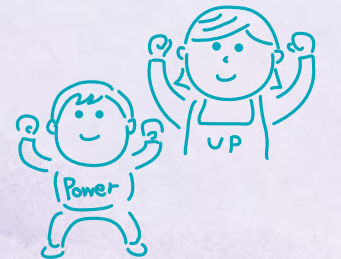
2. たくさん遊び「早寝早起き朝ごはん」で脳や体を元気に!

「寝る子は育つ!」素晴らしいことわざですね。

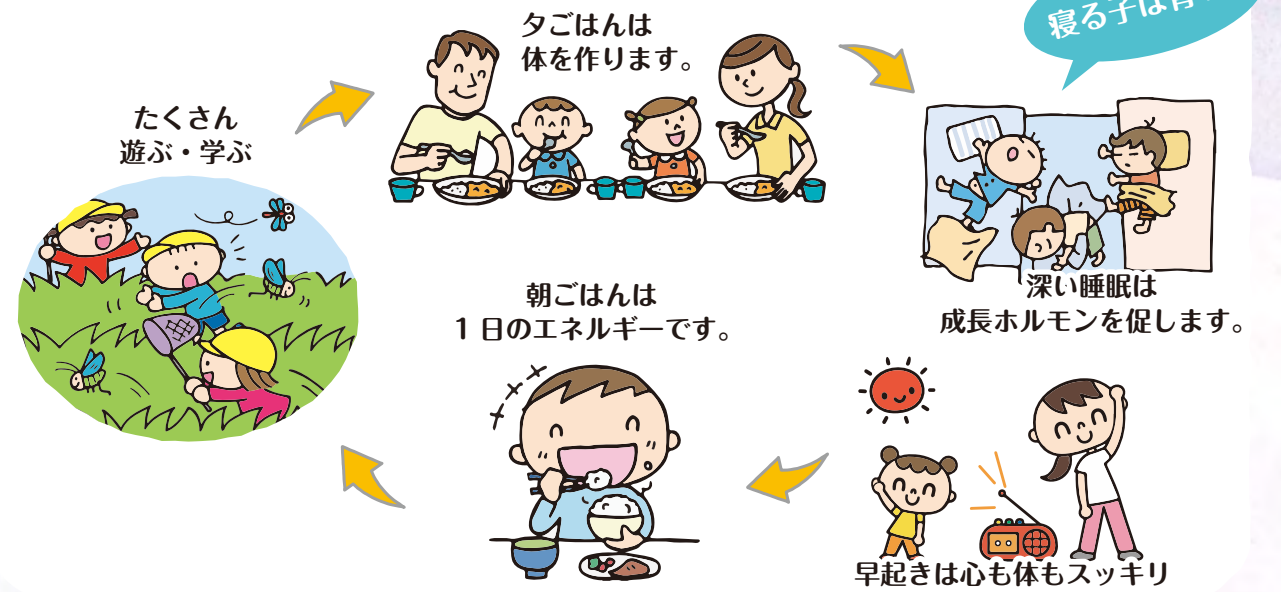
睡眠は、①心身を休息させる ②体をつくる ③心を強くする ④頭を良くします。子供たちの豊かな成長に“睡眠”は古来よりとても重要なことですね。

私たち、国立青少年教育振興機構では「早寝早起き朝ごはん」運動を推奨しています。早寝早起き朝ごはんといった基本的な生活習慣の実践が、脳科学からも重要であると立証されています。

特に幼児期から児童期は、成長が著しく脳や体が発達します。脳の発達に関して、眠りは昼間学習したことや経験したことを整理し、学習や記憶の統合に重要な役割を果たします。私たち大人でも眠ると頭がスッキリしますし、仕事の効率も上がります。また、体の発達に関して、睡眠前半の深い睡眠(ノンレム睡眠)のときに分泌される成長ホルモンが、骨格筋をつくり免疫力を高めることに重要な役割を持っています。



子供たちの健康な 脳や体の成長 ~早寝早起き朝ごはんの循環~



(引用:「早寝早起き朝ごはん」全国協議会)

子供たちはたくさん遊んで、しっかりと睡眠(早寝早起き)を取り、バランスの良い食事をとることが大切です。



自然体験活動の必要性

その2

自然体験活動が 発達に与える影響

1. 子供と環境の関わり

子供は様々な環境に働きかけ、環境との相互作用を通して“豊かな心情”“意欲・態度”を育んでいきます。

様々な環境（人的・物的）に働きかける



身近な体験を基にして

新たな能力を獲得していく




それまでの体験を基にして
更なる経験を積み重ねていく




成長

2. 幼児期の発達の過程（3歳児～5歳児）と自然体験活動


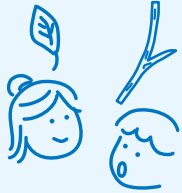
（1）3歳児

発達の過程	自然体験活動時における子供の姿
<p>運動機能の高まり</p> <p>基本的な運動能力が育つ 歩く、走る、飛ぶ、押す、引っ張る、投げる、転がる、ぶら下がる、またぐなど。</p>	<p>森の中は不整地です。その中を転ばないようにバランスをとりながら歩いたり走ったりする姿が見られます。</p> 
<p>言語の発達</p> <p>言葉を巧みに使うようになり、知的興味や関心が高まり、「なぜ」「どうして」の質問が盛んになります。</p>	<p>森の環境は園とは違います。不安ながらもドングリや葉っぱに興味津々です。保育者を呼びながら「これなに」などと質問がたくさん出てきます。</p>

（2）4歳児

発達の過程	自然体験活動時における子供の姿
<p>全身のバランス能力の高まり</p> <p>全身でバランスをとり、ジャンプや複雑な動きが出来るようになります。手先も器用になります。</p>	<p>木登りが上手に出来るようになります。手足を巧みに使い登ります。手足だけでなく、お腹でバランスをとりながら登ります。</p> 
<p>身近な環境への関わり</p> <p>身近な自然環境に興味を示し、積極的に関わろうとします。諸感覚をフルに活用し、見たり触れたりしながら物や動植物の特性を知り、より豊かな関わり方や遊び方を体得していきます。</p> 	<p>源流探検などでは、水の流れや冷たさに敏感に気づきます。手を入れて冷たい感触や、石の感触など諸感覚をフルに活用して自然物と関わっていきます。発見を楽しみ、自分で理解できたことを喜ぶ姿が印象的です。</p> 

（3）5歳児

発達の過程	自然体験活動時における子供の姿
<p>目的のある集団行動</p> <p>先を見通しながら目的を持った活動を友だちと行うようになり、仲間の存在が重要になります。自分の役割を果たし、決まりを守ることの大切さを実感していきます。</p>	<p>冬の森の中で、仲間が雪の壁を登れない場面があります。途中まで降り、仲間を助ける姿が見られます。自分の能力を知り、自分の出来ることで仲間の役に立つことが自己効力感を育みます。</p> 
<p>自主と協調の態度</p> <p>遊びを発展させた集団遊びが活発に展開され、遊びの中で役割が生まれます。役割分担をしながら、自分の持っている知識や技術を発揮していきます。創意工夫をしながら主体的、自主的に活動することが出来るようになります。</p> 	<p>枝を集め秘密基地作りや、雪上での尻滑り等では、役割分担が出来てきます。木を集める係、台所を作る係、屋根を作る係など、仲間の中で分担しています。互いに声を掛け合い基地のイメージを共有していきます。仲間と一緒に活動しているからこそトラブルなどの葛藤も乗り越えていきます。</p>

このように自然の中では、様々な環境に自ら関わっていきます。関わりながら試行錯誤を繰り返し出来たことを喜び、自信をつけていきます。出来たときに仲間や保育者から「すごいね。出来たね！」など言葉をかけられると更なる意欲が湧き上がります。幼児期にこそ様々な環境と関わり“自分で出来た”という自己有能感を育んでほしいと思います。それが、児童期以降の学ぶ意欲を高め、豊かな心情を育むことにつながります。



たいちよう

互いにメリットが生まれる 連携及び協働スタイル

～幼児キャンプを通して～

下記の機関と協働で幼児キャンプを実施し、それぞれに学びを得ました。

- 妙高市教育委員会 (園指導主事、採用5年目の保育士3名) × 自然の家
- 国際自然環境アウトドア専門学校 (教師、学生2名) × 自然の家
- 新潟青陵大学・上越教育大学 (保育士、幼稚園教諭を目指す学生) × 自然の家



田中
(園指導主事)

保育士がキャンプの企画・運営・評価の実際を経験することで、企画力や子どもを観察し援助する力など身をもって学びました。

私の学生も同じです。自然の中での遊びを通じた援助のあり方について学びを深めました。



田辺
(教師)



上田
(学生)

私は保育士を目指しています。キャンプを通して援助のあり方、保護者とのかわり方など、現場の先生の姿から学びました。

キャンプの協働を通して、関係機関それぞれに学びがありましたね。



室井
(自然の家)

田中
(園指導主事)

保育士の学びは大きくて、自園での指導力も向上しています。園庭や自然物を取り入れて積極的に外で遊ぶようになりました。園の子どもたちにも良い影響を与えています。

そうですね。学生も別のキャンプでの指導力の向上がみられました。保護者と接する場面でも、保護者の立場に立った言葉かけや対応が見られました。

田辺
(教師)

上田
(学生)

キャンプの中では、私自身初めての経験もありました。雪の積もった斜面で遊ぶなど、今後の保育に活かすことができます。

自然の家でも、皆さまの保育の専門性 (幼児理解) から、子どもや保護者も安心して活動ができました。それぞれの専門性が繋がって、質の高いキャンプ運営ができたと思います。

室井
(自然の家)

～妙高市内調査研究園～

妙高保育園、ときわ保育園との共同研究では、活動後にエピソードの考察を一緒に行いました。そのことで、園外保育 (自然の中で遊ぶ活動) における保育士の援助の質が高まり、幼児の豊かな感性や、“できた”という自信をより引き出すことが出来ました。

- 妙高市立妙高保育園 (年間9回 自然の家利用) × 自然の家
- 社会福祉法人恵信会ときわ保育園 (年間7回 自然の家利用) × 自然の家



柴田園長 (妙高保育園)

年に9回自然の家を利用しました。回を重ねる毎に子どもたちの遊びが発達しました。積極的に木登りをしたり、木の実などを拾ったりするようになりました。



笠原園長 (ときわ保育園)

我が園もそうですね。回を重ねていると、子どもたち自身が自然の環境に慣れるのですね。ここで遊んで良いという安心感をもって興味のあることにかかわっていますね。



室井 (自然の家)

多様な自然環境の中で、個々の興味を十分に保障してあげることができましたよね。

柴田園長
(妙高保育園)

豊かな自然環境のもとに遊びが発達したのは、そこに一緒に遊ぶ仲間や時間、環境が十分に保障されていたからではないでしょうか。森の中では90分くらい十分に遊び込みました。発見した喜びなど仲間と共有することができましたね。

笠原園長
(ときわ保育園)

仲間と発見や感動を共有する時間が大切ですね。発見したムシを取り囲んで、自分の知っている情報を出し合っています。その中でお互いに認められる機会があるのですね。

室井
(自然の家)

そうですね。自然物を通して群れて遊びながら、互いの存在を認めていますよね。

柴田園長
(妙高保育園)

自然体験活動を通して、子どもたちの他者を認める気持ちや、自然物を大切に扱うなど、思いやりの気持ちが育まれました。また、様々なことに気付くなど豊かな感性も育ったと思います。

笠原園長
(ときわ保育園)

そうですね。仲間と共に遊ぶ心地よさを感じていますね。その安心感を元に、自分の興味・関心のあることにチャレンジし、できた喜びを心身ともに味わっていますよね。

室井
(自然の家)

この時期に、仲間と共に遊び、その中で自分の存在が認められ、自分ができた喜びを感じることはとても大切ですね。自然体験活動を通してこのような力が育めたことを嬉しく思います。

幼保連携型認定こども園教育・保育要領と 自然体験活動の関連

自然体験活動から5領域へのアプローチ

各領域のねらい

- 【健康】** …… 健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う。
- 【人間関係】** …… 他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養う。
- 【環境】** …… 周囲の様々な環境に好奇心や探求心を持ってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。
- 【言葉】** …… 経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。
- 【表現】** …… 感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。

【健康】

- いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。
- 進んで戸外で遊ぶ。
- 危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する。

自然の中で遊ぶ子供の姿から「健康」に着目してみると、広大な森の中で十分に遊び込んでいます。興味のある場所に走ったり、戻ったりと自ら進んで動いていきます。遊びの中で、木の根っこや下り坂で、転ぶ姿が見られます。一度転ぶと、その場所を注視し、次は転ばないようにと子供なりに気を付けて遊ぶようになります。小さな怪我等を通して身をもって対処策や安全を学ぶことも重要だと思います。



豊かな自然環境 多様な自然体験活動

【人間関係】

- 自分で考え、自分で行動する。
- 自分でできることは自分です。
- いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちを持つ。
- 友達と積極的にかかわりながら喜びや悲しみを共感し合う。
- 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見出し、工夫したり、協力したりなどする。

自然の中での「木登り」に着目してみると「人間関係」での内容が多く表出しています。森にはたくさんの木があります。その中から、自分で登れそうな木を選んで登ります。どうやったら高いところまで登れるか、子供なりに考えて何度も挑戦します。最後まで登るぞという気概も感じられます。登りきると「先生見て！僕登ったよ！」などと自信に満ちた表情でやり遂げた達成感を味わっています。また、それを見ている他の子供も「すごいね。僕も登る！」などと刺激を受け登り始めます。このように「木登り」を通して様々なことを学んでいます。



【表現】

- 生活の中で様々な音、色、形、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。
- 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。
- 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。
- 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする。

自然の中で遊ぶ子供の「表現」に注目してみると、身ぶり手ぶりをしながら表現しています。それだけ心が動かされ感動していることの意味だと思います。実際に「大きな木」を表現する際、両腕を大きく開閉させながら表現するのです。目の前の大きな木を、自分の体と対比させながら表現をしているのでしよう。本物に触れることで事象に対するイメージがより具体的になることはとても大切です。このような環境から表現方法がより鮮明になっていきます。



【言葉】

- したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する。
- したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする。
- 生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く。
- いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。

自然の中で遊ぶ子供の「言葉」に注目してみると、個の感性で感じられたことが、言葉で表現されています。自分が主体となって発見した喜びや、不思議なことなど自分の言葉で表現してきます。本物に触れた感動から生じる言葉には力があります。このように子供の気持ちが素直に言葉に表されることは、とても大切な環境です。



【環境】

- 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。
- 生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心を持つ。
- 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。
- 自然などの身近な事象に興味を持ち、取り入れて遊ぶ。
- 身近な動植物に親しみをもち、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする。
- 身近な物や道具に興味を持ってかかわり、考えたり、試してみたりして工夫して遊ぶ。

自然の中での「森の中」に着目してみると「環境」での内容が多く表出しています。豊かな森の中は「生物多様性の世界」であり、子供にとって「センスオブワンダー」の連続です。個々に興味・関心のある事象に関わっていきます。そこで「これは何だろう」、「どんな匂いがあるだろう」、「ヌメヌメする」など諸感覚を通して様々なことを感じていきます。感じて、試してみ、さらに探索していく自らの学びが展開されます。このような環境を保障してくれるのが豊かな自然環境です。



おわりに

子供の頃の体験（遊び）は、心の支え

よく「子育て講演会」に行くと、子供をもつ保護者に『皆さんにとって「ふるさととは？」と聞かれて思い出すことは何ですか』と聞くことがあります。『あの季節に、あの友達と一緒に、あの場所に行って、〇〇〇をして遊んだことを思い出します』といったように、多くの保護者は、幼少期にふるさとの自然の中で仲間と遊んだことを話してくれます。子供の頃の「体験（遊び）」は、一生の思い出となり心の支えとなっているようです。

そして、いろいろ話を伺っていると『自分の子供にも同じ体験をさせてやりたいけど、今はできていないのでどうしたらいいでしょうか』といった話題になります。

今回の報告書では、そんな子供たちにとって体験活動（遊び）の重要性に触れながら、身近な自然で安全で楽しく遊ぶためのヒントとなるものを記載させていただきました。「子供たちにたくさんの自然体験（遊び）をしてもらいたい」という私たちの願いを本書にまとめました。皆様のご批評を賜りたくお願い申し上げます。

最後になりましたが、この取組を支えていただきました妙高市教育委員会教育長の濁川明男様をはじめ、田中園指導主事、3名の先生方、関係の皆様にご感謝申し上げます。

国立妙高青少年自然の家 所長 伊野 亘

協働運営者

妙高市教育委員会園指導主事 田中洋子

妙高市立妙高保育園 職員の皆様

社会福祉法人恵信会
とぎわ保育園 職員の皆様

妙高市保育士
柳原由美子・小堺麻美・舟見由衣・宮田友子

国際自然環境アウトドア専門学校
田辺慎一・松本江美子・矢吹麻弓

報告書執筆者

国立妙高青少年自然の家
企画指導専門職 室井修一

平成26年度国立妙高青少年自然の家職員一同

所 長／伊野 亘
次 長／國府 修治
主任企画指導専門職／高瀬 裕
企画指導専門職／小野 俊巳・水澤 勝宏
近藤 和久・室井 修一
事業推進係長／橋本 彰
事業推進専門職／外立 努
事業推進係主任／中川 知己・友松 由実
事業推進係／望月こずえ・飯吉 陽子
蟹江 真耶・八十島恵美子
総務係長／高松 宏幸
総務係／山田 佳寛 博志
管理係長／安田 大信
管理係／飯吉香代子・清水 綾
山崎 和美



幼児期における 豊かな自然体験活動のすすめ

独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立妙高青少年自然の家

〒949-2235 新潟県妙高市関山6323-2

TEL:0255-82-4321 URL:<http://myoko.niye.go.jp/>

国立妙高

検索

平成27年 3月